

協まちま月生 だより

第53号

令和3年9月15日発行



生月地区まちづくり
運営協議会

TEL/FAX 0950-29-9080



夏休み
施設開放

八月十七日（火）に竹細工教室を開催し、竹トンボと水鉄砲を作りました。小刀を使い竹を削ったり、アルコールランプで竹を曲げたりする難しい作業にも挑戦し、自分で作った竹トンボを飛ばして楽しんでいました。

また、貝細工教室を八月二十四日（火）に開催し、貝のオーナメントを作りました。細かいビーズを貼り付ける作業でしたが子どもたちの感性はすばらしく、とても素敵な作品が出来上がっていました。

夏休み最終日まで施設開放を行う予定でしたがお盆明けは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため作品教室以外は中止となりましたが、夏休み前半は子どもたちの賑やかな声と笑顔に癒された日々でした。

事業中止のお知らせ

今年度の事業として開催を予定しておりましたが、諸事情により中止となりました

★ いきつき勇魚まつり

11月に開催予定でしたが9月7日(火)の実行委員会において、新型コロナウイルス感染症拡大予防の観点から来場者の安全を考え、今年度の開催は中止が決定されました。

★ 三世代交流グラウンドゴルフ大会

10月・11月に開催予定でした。健康福祉部会の協議にて様々な意見をいただきましたが、今年度は中止することに決定しました。

★ ごみを拾いながら史跡を 巡ろうウォーキング

楽しみにしていた方々へは大変残念なお知らせとなり申し訳ありません。
次回開催時にはぜひ笑顔でご参加いただけるよう準備をしていきたいと思っています。



コラム

あごを焼く 香りが包む 島の秋（拙作）

今時分になると母親と一緒に焼きあご作りをしました。とは言っても家族が一年で消費する分だけなので、だいたい一日あれば終わるくらいの量ですが。水揚げされたあごが運ばれてくると、まずは小さいあごと大きなものに選別し大きなものは母親が塩あご用に付け込んでいきます。小生は、小さなあごを串にさしていく係で、これがかかなか小さな手では大変で苦労しながら刺したことを覚えています。刺し終わると炭火の上に並べて焼いていきます。焼き加減が微妙で母親から「まあだたい。」とか「はよ、かわさなたい。」などと言われながら作業を進めていました。ただ、あごが焼けていく時に煙が立ち上りますが、それが大層香ばしくて好きでした。その時季は、町中至る所であごを焼いていましたので、生月島全体が焼きあごの香りに包みこまれたようで心地いい秋を感じていました。

昨今はあごの水揚げが少ないのかそのまま鮮魚で売買されているのかわかりませんが、めっきりそこかしこから立ち登る煙に触れることが減りました。しかし、午前6時になると港から一齐に出漁する光景が見られますのであご漁の醸し出す秋は感じられます。ただ、最近はサイレン吹鳴の時間が変わり6時のサイレンが号砲かのように我先にと港を飛び出していく光景が見られないのは少し残念です。しかし、やはり生月の秋の代名詞は「あご」ですから、今年が豊漁で港が賑わいを見せてくれることを心から祈っています。（学）

